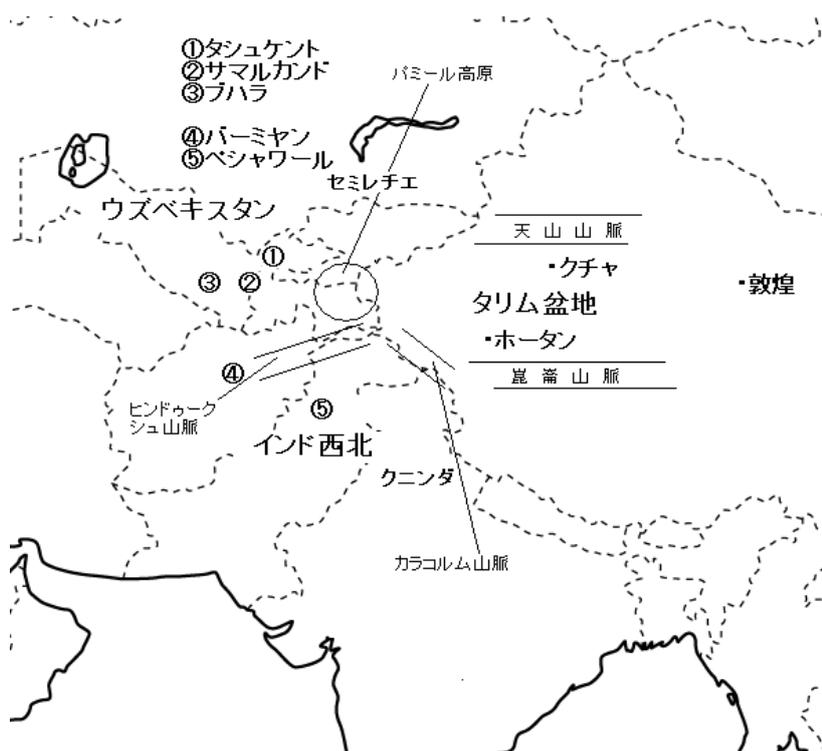


二言語併用貨幣 —セミレチエのソグド銭—

吉池孝一

紀元前2世紀前半にインド西北の地においてギリシア系のバクトリア王国より二言語併用貨幣が発行され¹、その後もこの地において同様の貨幣は発行され続けた²。この二言語併用という新たな貨幣様式はインド西北の地から周辺の地にも伝播した。ここでは周辺地域の二言語併用貨幣の一つとして、古代文字資料館が所蔵するセミレチエ(天山山脈の北、バルハシ湖の南)と称される地域のソグド銭を紹介する。



¹ ヒンドゥークシュ山脈を越えてインドの西北に進出したデメトリオス1世の息子には、デメトリオス2世(前180-前165)、アガトクレス(前180-前165)、パンタレオン(前185-前175)の三人がおり、それぞれの王名の二言語併用貨幣が発行された。デメトリオスとするものはギリシア文字とカローシュティー文字によるものであり前田耕作(1992:161頁)によるとこれは2世の発行に係るといふ。アガトクレス、パンタレオンとするものにはギリシア文字とブラーフミー文字によるものがある。

² イラン系の所謂インド・スキタイ朝、クシヤン族のクシヤン朝においてギリシア文字とカローシュティー文字銘文をもつ二言語併用貨幣が発行されたが、紀元後2世紀中ごろクシヤンのカニシカ王に到ってカローシュティー文字によるインド俗語(ガンダーラ語)の銘文は用いられなくなった。



左



右

これはセミレチエ地方で出土するソグド文字・ソグド語銘文をもつ貨幣で、その形態は方孔円形で製造法は鑄造であるから中国の貨幣様式によったものである。Камышев(2002)によると紀元後8紀前半のものという。

先ず写真左をご覧ください。方孔の周囲にソグド文字によるソグド語が一行配されている。8時の位置より反時計回りに貨幣の内側よりみて xwt'w(王)、w[^hxswt'wy](ヴァクシュタヴの)、pny(貨幣)とある。語訳および[]は Камышев(2002)による。次に写真右をご覧ください。上および左にセミレチエのタムガ(シンボルマーク)があり、下に漢字の“元”がある。この“元”は、おそらく唐代に発行された開元通寶の“元(始まり、根源)”に相当するのであろう³。二言語併用貨幣ということになる。形態と製造法は中国の貨幣様式である。写真右の紋章と漢字の配置は、漢字を上下左右に配する中国銭の様式を受け継いでいる。しかしながら、写真左の銘文は、中国の伝統とは相容れない。王名を含むところは、マケドニアのフィリッポス2世以来のギリシア貨幣様式を髣髴とさせる。しかも、二言語併用貨幣であるから、これはギリシア系バクトリア王国の貨幣に発する二言語併用貨幣の系譜に列なる貨幣とすることができよう。

【参考文献（発行年順）】

田辺勝美編(1992)『[平山コレクション]シルクロードのコイン』講談社。

前田耕作(1992)『バクトリア王国の興亡』(ヴェルズ文庫),第三文明社。

P.L.グプタ著/山崎元一他訳 2001.『インド貨幣史 —古代から現代まで』刀水書房。

A.Камышев(2002)Раннесредневековый монетный комплекс Семиречья. Бишкек:РаритетИнфо.

³ ブハラからは開元通寶とブハラのタムガが鑄込まれた方孔円形の銅銭が出土する。